

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、課題発見解決力の育成を目指した教育課程編成及び授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な取組を推進する。</p>	<p>①生徒の学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。教科会を主体とした組織的な授業改善の充実を図る。</p> <p>②コロナ禍での知見を活用しながら、コロナ前よりも生徒主体となる学校行事、生徒会活動となるような支援を図る。</p>	<p>①実力アップ講習等は年間の計画を策定し、教科として組織的に取組む。ICT利活用推進チームを中心に、組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒会や、各委員会の生徒との連絡を緊密に取りつつ、担当教員のみでなく、活動支援グループとしての組織的な支援を図る。</p>	<p>①実力アップ講習及びキャリアアップ講座の開講講座数、受講生徒数が前年度を上回ったか。ICTの利活用について、学校評価アンケートにおいて肯定評価80%以上を達成できたか。</p> <p>②学校評価アンケートの学校行事・部活動等において「主体的に取り組むことができたか」等の項目において、肯定評価80%以上を達成できたか。</p>	<p>①実力アップ講習は、年間計画を策定して組織的に取り組み、6、7月に4回、10、11月に8回実施した。講座数、受講生徒数は、昨年度と概ね同数であった。キャリアアップ講座については、昨年度よりも単位認定に至る生徒が増えた。</p> <p>②生徒はコロナ禍での行事しか経験していない中、担当教員を中心に生徒の支援を行い、制限のなくなった活動に対応することができた。その結果、学校評価アンケートの該当項目において91%を達成した。</p>	<p>①生徒のニーズに合った講座・講習の設定が必要不可欠であるが、実力アップ講座の、特に土曜講習については、外部教育機関と連携するなど、生徒のニーズに合う違う形を模索する必要がある。</p> <p>②今年度生徒が経験したことをふまえ、生徒自身が成果・課題を振り返る機会をつくり、来年度は生徒主体の取組みが一層充実するような支援体制をつくる。</p>	<p>①生徒による授業評価については、バランスの良い結果で評価できる。経年でも注意深くデータを見て、課題を抽出して授業改善につなげることを期待する。</p> <p>②学校行事に対しての生徒の肯定評価が高いことは評価できる。文化祭ではスペースの課題がある。廊下が歩けないくらい込み合い、中庭も人で溢れている。校庭を使うなど工夫をして、地域の住民も入りやすい雰囲気になると良い。</p>	<p>①実力アップ講習の受講募集にあたり、年間計画を示して、先を見通すことができたこともあり、1年生の多くが受講した。一方で、学年が上がるにつれて、受講者数が減少する状況となっている。生徒が参加しやすい環境づくりのために、部活動との兼ね合いを検討していく必要がある。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響のない状況での学校行事に対する知見が乏しい中で、生徒が満足する活動を行うことができた。来年度は、より多くの保護者や地域住民が学校行事等に訪れることが予想される。今年度で得られた知見を活かした上で、安心安全に学校行事を運営できる対策を講ずる必要がある。</p>	<p>①生徒のニーズ及びそれに応じた講習の設定を検証していく。生徒が参加しやすい環境づくり整備を検討していく。</p> <p>②来場者の混雑を回避するために、展示場所の配置や、各企画の混雑回避策を考案する。また、来場者の写真・動画撮影に関するルールづくりを検討する。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動の活性化を通し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、心身の成長を支援する。</p>	<p>①部活動・学校行事のさらなる活性化を図る一方で、ルールやマナーを守ること、健康と学習とのバランスを取るなどを徹底し、責任感や柏陽高校生徒としての連帯感の涵養を図る。</p> <p>②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置拡充を活用し、外部機関との連携を強化し、相談体制の充実を図る。</p>	<p>①部長会・各委員会における生徒との連絡を密に行い、生徒の意見を尊重しつつ、活動目標や活動上の留意点などをこまめに指導しながら、目標達成に向けた支援をめざす。</p> <p>②生徒がカウンセリングを受けられる機会の拡充を図るとともに、スクールソーシャルワーカーと連携し、必要に応じて外部機関と連携する体制を整える。</p>	<p>①学校評価アンケートの学校行事等の取組状況や満足度等について肯定評価80%以上を達成できたか。</p> <p>②校内における教育相談の実施状況や学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。また、外部機関との連携を適切に行うことができたか。</p>	<p>①Google クラウドルームを活用しながら、各部・各委員会が顧問と打合せをこまめに行い、円滑な活動を行うことができた。その結果、部活動について81%、学校行事について91%が満足していると回答した。</p> <p>②SCによる教育相談は延べ97人(前年比138%)が利用した。また、昼休みに生徒の居場所としてSSWによる「フリースポット」を開設し、相談の機会を増やすことができた。学校評価アンケートの該当項目における肯定的評価は80%であった。</p>	<p>①各活動と学習とを両立させながら、いかにして高い目標を設定し、目標実現のために努力できるか。そのための支援体制を職員・生徒間で検討する。</p> <p>②SSWの全校配置により相談の機会を週1回設定することができたが、活用しきることができなかった。来年度は職員への周知を積極的に行い、相談に繋がれる体制を整えていく。</p>	<p>①生徒の満足度の高さが評価できる。新型コロナウイルス感染症以前の状態がベストとは限らない。感染症対策で得た知見を生かしながら、より良い形を目指して指導してもらいたい。</p> <p>②SCの充実が評価できる。SSWの活用については、希望者が少ないのであれば、ランダムに面談機会を設定するなど、まずは利用機会を増やしてはどうか。細やかな支援を期待するが、担任だけの負担にならない様、また、生徒が色々な教員に相談できる様な組織的な仕組みを検討して欲しい。</p>	<p>①部活動・学校行事について、生徒が満足感を得る活動を行うことができた。今後も新型コロナウイルス感染症対策で得た知見を活用しながら、学習との両立を図るなかで、生徒がより高い目標を持ち、主体的な活動を通して責任感や連帯感を涵養できるよう組織的に指導していく。</p> <p>②SC、SSWを活用し、カウンセリングの機会の大幅な増加や「フリースポット」の開設に繋げることができた。来年度は更なる教育相談の充実に向けて、生活支援グループ以外の職員も巻き込んだ組織的な相談体制を整える。また、SSWの活用に向け、職員への周知を積極的に行う。</p>	<p>①活動成果としての目標に加え、ルールやマナーの涵養、学習とのバランスなど、生徒主体の活動を通して、より高い満足度を得られるよう組織的な指導体制を確立する。</p> <p>②各学年の係として教育相談担当を設置し、組織的な教育相談体制の強化を図る。また、「かながわ子どもサポートドック」の結果を活用し、サポートが必要と思われる生徒を積極的にSCやSSWの面談に繋げていく。職員に対してもSSWが対応できる事案を積極的に紹介し、より効果的な連携を検討する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組む。また、新学習指導要領による大学入試の変更点について情報を収集し、生徒、保護者、教職員への周知を図る。	①生徒及び保護者の面談、出願指導検討会及び進路説明会が有効であったか。大学入学共通テスト得点状況、難関大学合格者数10名以上、国公立大学合格率40%以上を達成できたか。	①進路指導への肯定評価は76%であった。国公立大学の前期までの現役合格者は110名、(昨年112名)、難関国公立大は16名(昨年13名)。保護者対象進路説明会、生徒対象進路説明会にて丁寧な情報提供を行った。また、出願指導検討会を実施、担任・教科担当などで現状を把握し指導に活用した。	出願指導検討会を行い情報共有することで、担任以外の教科担当者からも適切にアドバイスする事ができた。また、今年度の取組をまとめた資料を作成し、次年度以降に56期担任、生徒へ伝えていく。引き続き生徒の高い進路希望を引き出し支える指導を進める。	①高い進学率を維持しており、また、旧帝大をはじめとする国公立大の合格者数が増えており、学校としてのブランディングが上手くいっていることが評価できる。進路の不安に対して、面談などで解消できていることも良い、今後も継続的に取り組んで欲しい。	①生徒・保護者に対して、進路指導検討会を踏まえた面談や進路説明会を通じて有効な指導を行うことができ、55期生の難関国公立大学合格者数、国公立大学合格者数ともに目標を達成することができた。	①これまでの進路指導の成果を踏まえ、3年間を通じて指導する「進路指導プログラム」を発展させることで、より高い進路実績を目指す。また、グループ担当だけでなく学校として全職員が進路指導に取り組む体制を充実させる。新教育課程における入試初年度として積極的な情報収集とともにミスのない出願指導を継続していく。
4	地域等との協働	①ホームページのコンテンツを充実させ、学校の特色と魅力を積極的に発信する。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動について、保護者や地域の方に向けて、より広くかつ迅速な情報発信に取り組む。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、教育活動の充実を図る。	①生徒の活動の様子をより詳しくかつ迅速に発信するため、情報収集やホームページ更新作業の仕組みを改善し、組織的な取組を推進する。 ②授業や学校行事において、行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①学校説明会などにおけるアンケートで、ホームページが適切に情報を伝えているという肯定評価70%以上を達成できたか。 ②授業や学校行事における外部機関や講師の活用状況や、保護者・生徒の満足度等が上昇しているか。	①学校説明会におけるアンケートで、来場者の90%が、ホームページが柏陽高校を知るために役に立ったと答え、78%から満足であるという肯定評価を得た。 ②キャリアアップ講座13講座を始め、救急救命法の講習や栄区の行事への参加などを実施した。保護者の校外での体験活動への肯定意見は57%となった。	①ホームページ更新を組織的にを行い、迅速な情報発信に努める。学校説明会では生徒の活動を見たいという要望に応え、オープンキャンパスを検討している。 ②キャリアアップ講座では、生徒が参加する講座が限定されつつあり、新たな講座の開設が課題である。より活発に外部機関との連携を図り生徒、保護者の満足度向上に努める。	①ホームページは柏陽高校を知ってもらうための入口であり、より一層の攻めの情報発信をすると良い。柏陽の良い所、改善している様子を全面的にアピールし、情報を発信して欲しい。 ②栄区の設備として本郷台駅前のサイネージやドローンなど、準備ができています。今後、活用を検討して欲しい。 生徒の地域貢献への意識が上がるような活動や関わりを増やしていく取組を望む。	①ホームページ更新について、担当者個人ではなくグループで組織的に作業することで、個人の負担を軽減し、迅速に更新することができ、それが高い肯定評価につながった。 ②キャリアアップ講座などの活動をコロナ以前の形で再開することができた。地域連携部会で議論となった、学校PRについて、栄区の設備を利用させてもらう事ができるようになった。	②ホームページ更新を職員全員が協力して行う体制にし、情報発信をさらに活発にしていく。夏休みにオープンキャンパスを実施し、入学希望者が生徒の活動を直接見て本校の教育活動を感じる機会とする。 ②キャリアアップ講座などにおいて、新たな連携先の探索や、生徒のニーズに応えた講座など、新たな講座開設を検討していく。生徒の地域貢献に対する意識が高揚するような活動や、地域との連携について考案する。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、緊張感のある防災訓練を継続し、安全安心な教育環境を整備する。	①教育環境の変化に迅速に対応し、教員が協力して前向きに取り組める職場の雰囲気を醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備及び、事故・不祥事の防止を図る。	①職員が相互に尊重し合える職場づくりを目指し、職員人権研修会や事故防止会議を実施する。報告・連絡・相談を励行し、風通しのよい職場環境を醸成する。 ②ICTの利活用を推進し、情報の共有化、校務の効率化を図るとともにペーパーレス化を推進する。地域と連携した防災対策を進める。事故防止会議等により不祥事防止に取り組む。	①職員人権研修会等の実施回数やその取組状況はどうか。報告・連絡・相談を励行しているか。 ②ICTを導入して校務の効率化を図れたか。安全点検を実施したか。防災訓練の実施状況、不祥事防止研修会をはじめとする不祥事防止の取組の実施状況はどうか。	①外部講師を招いた職員向け人権研修会、SCによる不祥事防止研修会等を実施した。また、職員間で活発に情報交換が行われ、報告・連絡・相談が密に行われた。 ②Teamsのチャット機能などを活用した情報共有などにより、業務効率化を進めた。年度当初に計画した安全点検、3回の防災訓練と全12回の不祥事防止研修会を実施した。	①研修会への取組の様子などから、人権尊重に向けた、職員の意識の向上がうかがえる。引き続き研修会等を継続し、職場環境の改善を目指す。 ②ICTの更なる活用により業務の効率化を図る。また、地域の方など校外の方の協力を得ながら、より効果的な防災訓練を実施するなど、安全安心な教育環境を引き続き整備し、事故・不祥事の防止に取り組む。	①学校運営では職員の一人ひとりが自覚をもっており、良い組織だと思う。しっかりと課題意識を持って取り組んでいると感じるので、今後も継続して欲しい。 ②防災活動について、地域と連携した取組ができると良い。地域と連携した防災訓練や、災害時に柏陽高校がどのように地域と関わるのかなど、発展させていくことを期待する。	①職員の事故不祥事防止や人権教育への理解が深まっており、課題に対して前向きに取り組める職場の雰囲気が醸成できている。 ②Teamsのチャット機能を活用した情報共有や、校内の施設予約システムを活用して、業務効率化を進めることができた。	①職員の課題意識を高く維持していくために、研修会などの効果的な取組を検討し、計画的に実施していく。 ②ICTをさらに活用して、さらなる業務効率化や業務改善を推進する。災害時に柏陽高校が地域においてどのような役割を果たすのかを考え、地域と連携した防災訓練などの活動について検討していく。